

# 国際交流会館I-wing なかもずオープニング記念 フォーラム報告書（大阪府立大学第22回留学生 日本語弁論大会）

URL

<http://hdl.handle.net/10466/00016572>

**大阪府立大学**  
**国際交流会館 I-wing なかもず**  
**オープンニング記念フォーラム報告書**  
**(第 22 回留学生日本語弁論大会)**

平成 27 年 11 月 3 日(火)  
大阪府立大学



I-wing なかもず  
世界に翔く学生を育てる

**大阪府立大学国際交流推進機構**

**大阪府立大学留学生後援会**



## 目 次

国際交流会館 I-wing なかもずオープンニング記念フォーラム報告書に寄せて	…1
国際交流会館 I-wing なかもずオープンニング記念フォーラム実施要領	…2
“トビタテ！後輩たち” 基調講演及びパネルディスカッション	…3
“トビタテ！府大から世界へ” 留学生日本語弁論大会	…5
弁論要旨	
金賞 「色鮮やかな日本で私の自由の生活」 Nahid Rahman	…6
銀賞 「方法は違うけど皆同じ」 Jinhyung Lee	…7
銅賞 「現実となった日本人」 Elisabeth Richard	…8
奨励賞 「私から見た日本人との交流経験」 Yiqun Wang	…9
奨励賞 「日本人との交流を通して気づいた事」 Nguyen Le An	…10
奨励賞 「日本で道を迷ったこと」 Mai Phuong Tu	…11

# 大阪府立大学国際交流会館 I-wing なかもず

## オープニング記念フォーラム報告書によせて

本学の創基 130 年を記念して 2015 年春、念願かなって国際交流会館 I-wing なかもずがオープンしました。ご寄付いただいた多くの方々の御芳志の賜物です。これを順調にスタートさせ、広く活用していけるよう軌道に乗せるのが、本年度の大事なミッションでした。異なる文化を持つ 9 ヶ国の留学生と日本人のレジデントサポーター、70 余名が、キャンパスの中で 24 時間の共同生活を始めるという国際学生寮は、経験知のないチャレンジ。気の抜けない日々が続きましたが、何とか落ち着き始めた秋、無事スタートした会館を広く知っていただくフォーラムを企画しました。

テーマは「I-wing トビタテ！後輩たち」。異なる文化と出会い、刺激を受け、世界へ翔び立っていけ、という思いを込めた会館の愛称「I-wing なかもず」に因んだものです。そのため、本学のホームカミングデーに合わせて、いま海外で活躍中の留学経験をもつ同窓生を招き、後輩たちにキャリア形成のロールモデルを提供してもらうことにしました。当日は、報告書に掲載しました多彩な先輩たちから、ご体験に基づくリアルで熱いメッセージを次々に語っていただきました。後輩たちだけでなく、参加した教職員も、あらためて留学支援のもつ意義を深く感じ取ることができました。

また、日ごろ留学生がお世話になっている留学生後援会による「留学生日本語弁論大会」も同時開催しました。卒業生や地域の支援者の方々が見守る中、現役の留学生たちによる、真剣で、かつユーモアも交えた闊達な弁論が続きました。会場のグローバルコモンズは、笑いあり、溜息あり、ときには涙を誘われるような盛り上がりを見せました。その発表原稿は、本誌に収録していますので、ぜひご参照ください。

建物ができるだけでなく、そこに魂が入って温まっていくのは、このような機会を重ねてのことだと痛感します。このフォーラムにご参加くださった方々、常日頃から本学の国際交流にお力添えをいただいているロータリークラブ、国際ソロプチミスト堺、堺市、KoKoC ならびに現役・OB の先生方、ほんとうにありがとうございました。そして、今後とも、国際交流会館 I-wing なかもず／グローバルコモンズをご活用くださり、盛り立ててくださいますよう、衷心よりお願い申し上げます。

大阪府立大学国際交流推進機構長  
大阪府立大学留学生後援会 会長  
吉田 敦彦

# 国際交流会館 I-wing なかもずオープニング記念フォーラム実施要領

## 1. テーマ・趣旨：「I-wing トビタテ後輩たち」

大阪府立大学での留学体験をもつ卒業生（同窓生）から、在学中の経験がどのように卒業後の活躍につながっているか、後輩たちへのメッセージやアドバイスを語っていただく。同時に在籍する留学生からは、本学での学びを通して見える日本について弁論を通して発表し、卒業生と在学生の交流をはかる。

## 2. 目的

- 1) 在學生に留学等の国際交流にかかわるキャリア形成のロールモデルを提供する。
- 2) 教職員がこれまでの留学事業を振り返り、今後の本学における国際交流事業のあり方を展望する機会とする。
- 3) 地域の関係者に対し、成果の共有を通して日頃の支援への感謝と一層の協力を依頼する。
- 4) 海外の卒業生・同窓生とのネットワークを形成する。

## 3. 概要

- 1) 開催日：平成 27 年 11 月 3 日（火・祝） 〈ホームカミングデー〉

**10:00-12:00 午前の部** “トビタテ！後輩たち”

10:00 記念シンポジウム

(1) 基調講演 (30分)

(2) リレートークとパネルディスカッション (90分)

**13:30-16:30 午後の部** “トビタテ！府大から世界へ”

13:30 - 14:10 (3) 基調講演 (40分)

14:30-16:30 (4) 留学生日本語弁論大会 (120分)

**16:30-17:30 交流会**

国際交流会館 I-wing なかもずロビーにて

- 2) 会場：国際交流会館 I-wing なかもず グローバルコモンズ

- 3) スピーカー：

基調講演 2名（本学の留学生 OB）

パネリストのリレートーク 4名（本学の留学生 OB）

留学生日本語弁論大会 6名（本学の留学生在学生）

4. 主催 大阪府立大学国際交流推進機構、大阪府立大学留学生後援会

後援 堺市、堺市内ロータリークラブ、国際ソロプチミスト堺

協力 大阪府立大学留学生総会、大阪府立大学国際交流サークルオリオン

## “トビタテ！後輩たち”

### 基調講演及びパネルディスカッション概要

2015年11月3日（火・祝日）に、今年4月にオープンした国際交流会館 I-wing なかもずのオープン記念フォーラムを開催しました。「トビタテ！後輩たち」をテーマに、午前の部では、本学を卒業した元留学生 6 名をゲストに迎えて講演やパネルディスカッションを行い、続く午後の部では、本学留学生による日本語弁論大会を行いました。当日は、本学学生や教職員はもちろん、学外からも、日頃から留学生にご支援をいただいている関係者の皆さまなど、総勢約 100 名の来場者がありました。

フォーラムの基調講演では、インドネシアのパジャジャラン大学で教鞭を取られている Rina Indiastuti 氏（経済学研究科修了）と、中国で企業を経営されている王達氏（農学研究科修了）に、それぞれお話をいただきました。両氏とも、自身の留学時代について、「外国人として日本で暮らすことは時に困難で、指導教員や友人、地域の人々とのつながりに支えられてそれらの困難を乗り越えることができました。今の自分があるのは、留学時代があったからだと思います。」と語られ、会場の留学生たちの大きな励みになりました。

パネルディスカッションでは、ビジネスの第一線で活躍されている周磊氏（経済学研究科）、国際協力の現場で奮闘されている孫明愛氏（社会福祉学部卒業）、企業で研究者としてのキャリアを積んでおられる Ebrahimi Afshin 氏（工学研究科修了）、日本での社会生活 2 年目の馬光宇氏（工学部卒業）、の 4 名に登壇いただき、自身の留学経験をもとに「学生時代をどのように過ごせばよいか」「異国で学び生活する“留学”を経験して良かったと思うことはどんなことか」など、在学生へのメッセージを送っていただきました。「大阪府立大学で学び、卒業をしたことを誇りに思います」という先輩の言葉に学生は大きな刺激を受け、会場からは、ひとりひとりのお話に大きな拍手が送られました。



## 基調講演 Keynote Speech



### Rina Indrastuti氏

パジャジャラン大学（インドネシア）経済学部教授・前副学長  
インドネシア中央政府産業政策専門員

Professor in Economics, Former Vice-Rector, Padjadjaran University  
Member of National Industrial Policy Committee, Indonesia

大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程修了  
Completed Ph.D. Degree at Graduate School of Economics, OPU



### 王達 (Da Wang)氏

北京建王綠色科技有限公司 代表取締役社長 / 北京林業大学客員教授 /  
大阪府立大学北京同窓会会長

President, Jian Wang Group / Visiting Professor of Beijing Forestry University /  
Chair of OPU Alumni Association in Beijing, China

大阪府立大学農学研究科博士前期課程修了  
Completed Master's Degree at Graduate School of Agriculture, OPU

## パネルディスカッション Panel Discussion



### 周磊 (Lei Zhou)氏

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 執行役員 パートナー  
Partner, Deloitte Tohmatsu Consulting LLC

大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程修了  
Completed Ph.D. Degree at Graduate School of Economics, OPU



### 孫明愛 (MOUNGAE SON) 氏

Baguio eastern children center 〈フィリピン〉プロジェクトマネージャー  
Project Manager, Baguio eastern children center (Philippines)

大阪府立大学社会福祉学部卒業  
Graduated from School of Social Welfare, OPU



### Ebrahimi Afshin氏

株式会社エア・ウォーター総合開発研究所 Process Development and Integration Engineer  
Process Development and Integration Engineer, Air Water R&D Co., Ltd.

大阪府立大学工学研究科博士後期課程修了  
Completed Ph.D. Degree at Graduate School of Engineering, OPU



### 馬光宇 (GuangYu Ma)氏

日本ペイントホールディングス株式会社勤務  
Nippon Paint Holdings Co., Ltd.

大阪府立大学工学部卒業  
Graduated from School of Engineering, OPU



## “トビタテ！府大から世界へ”

### 留学生日本語弁論大会出場者及び入賞結果一覧

	氏名	弁論タイトル
金賞	Nahid Rahman (生命環境科学研究科獣医学専攻博士課程 1年)	「色鮮やかな日本で私の自由の生活」
銀賞	Jinhyung Lee (工学域 2年)	「方法は違うけど皆同じ」
銅賞	Elisabeth Richard (人間社会学研究科 交換留学生)	「現実となった日本人」
奨励賞	Yiqun Wang (工学研究科博士前期課程 1年)	「私から見た日本人との交流経験」
	Nguyen Le An (工学研究科 博士前期課程 2年)	「日本人との交流を通して気づいた事」
	Mai Phuong Tu (工学研究科 博士後期課程 2年)	「日本で道を迷ったこと」



日本語で弁論を披露する留学生



日本語弁論大会出場者の記念撮影

## <金賞> 色鮮やかな日本で私の自由の生活

生命環境科学研究科獣医学専攻博士課程1年

ナヒド ラーマン

Nahid Rahman (バングラデシュ)



みなさん、こんにちは！

ナヒドラーマンともうします。バングラデシュからまいりました。去年の一月日本に来ました。今、大阪府立大学の獣医学の博士課程の一年生です。

バングラデシュはインドのとなりにある小さい国です。でも人口は多いです。バングラデシュの自然は美しく、緑をたくさん見えます。家族の絆はとても強いです。私たちはカレーが大好きで、女の人にはたくさんの種類を作ります。さらに、私たちは、友達をたくさん家に誘って、一緒にご飯や、いろいろな話を楽しみます。

バングラデシュに一番長い海岸があります、コクスバザールといいます。バングラデシュに、とても大きい森があって、そのなかにロイヤルベンガルトラが存在しています。

日本に来て、最初に思ったのは、日本は環境がとてもきれいですね。人々は仕事に対して、とてもプロフェッショナルで、熱心に仕事をしています。

日本のはじめての友達は夫婦のあきこさんといさおさんです。彼らはたくさん助けていただいて、とても感謝しています。バングラデシュで国際機関で働いて、たくさん外国のかたと出会うことができました。アメリカ人や、ヨーロッパ人や、アジア人も。でも、日本人は特別だとおもいます。日本人はとても優しく、人を助けることを自然にやります。

初めて友達の家に行った時について、はなしたいです。彼らの家はとてもきれいで、ものが完璧に片付けていました。畳はとくにきれいだな、とおもいました。さらに、家に花がたくさんありました。あそこで初めて、お寿司とたこ焼きを食べました。とてもおいしかったです！私の友達の家にはワンちゃんもいました。一番感動したことは、ワンちゃんのこと、家族みたいに大事にしてあげました。あの時、初めて日本のお茶を飲みました。うちの国では、ミルクティーやコーヒーや緑茶を飲めますが、日本のお茶はとてもおいしくて、特別です。

他の日本であった経験は祭りに行くことです。たとえば、だんじり祭り、とても面白かったです。この祭りで、男性は特別な服を着て、だんじりを運んで、みんなたくさん楽しんでます。この祭りはとても面白いですが、一年中お祭りのために準備がされます。次は、ひな祭りです。女の子はとてもきれいな着物を着て、信じられないくらいかわいいです。

他の不思議なことは、日本にはたくさん電車の種類があります：新幹線など、ラピート、急行、普通列車があります。交通はとても便利で、どこでも行けます。新幹線に乗ったとき、とても速いなーと思った；日本の生活と同じだと考えました。私のペースは、まだ普通列車みたいなものですから、日本人を見習って、はやくあわせようとおもっています。

日本の料理はとてもおいしいです。てんぷらとお寿司が大好きです。タコ焼きも好きですが、タコはだめです！ですので、私のスペシャルたこ焼きには、たこが入っていない。そのかわりに、えびや、おさかなを入れます。果物もだいすきです：柿と梨はとくに、バングラデシュにはないので、日本に来てからとてもはまりました。野菜はバングラデシュの野菜と似ています、けれども、日本の野菜のほうが甘くて、料理しやすいです。

日本人のともだちは、カラオケや、お花見や、花火に誘ってくださったので、とても感動しました。みんな、なんでこんなにやさしいのかなーと自分で思った。日本人におねがいたかった：このやさしさをおしえてください！でも、そのあと自分で気づきました：自分からしかできないことです。これから、日本人のような、いいひとになるつもりです。

最後に、仕事を熱心にして、日常の生活も楽しんで、人々をたすけて；日本はこの三つのことを教えてください、ありがとうございますといたい。もし、誰かに、どこに住みたいですかと聞かれたら、日本で！と、ぜひ、答えます。

これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございます！

## <銀賞> 方法は違うけど皆同じ



工学域 2年

リ チニョン

Jinhyung Lee (韓国)

こんにちは。リ・チニョンと申します。今日は「方法は違ってもみな同じ」というタイトルで、去年から今年まで日本人との交流で感じたことの中、去年まで経験した受験についてお話ししたいと思います。皆さんは「受験戦争」という単語をお聞きしたことがありますか。ここで、注目していただきたいのは、なぜ受験なのに、戦争という単語をつけているのかです。韓国の大学受験は、みなさんもお聞きしたと思いますが、非常に激しいです。少し、楽な生活を過ごしていた中学生と比べて、高校生になった直後、高校生は、朝8時から授業が始まるので、それに向けて準備をします。普通の授業が5時から6時ぐらいに終わりますが、9時、10時まで学校で夜間自律学習という学校で勉学するシステムを持っています。そのシステムをスヌン、すなわち韓国のセンター試験が終わるまで続くということです。特に、高校三年生の場合は、土日もあるような感じで過ごしています。その激しさについては、スヌンの当日まで影響があつて、国語や英語の聞き取りの時間に、空港では飛行機の離陸時間を延長したり、騒音が出やすい工事現場などではその日に限って工事を中止したりしていただきます。また、すべての受験生が受験できるように警察が遅刻しそうな学生を受験する学校までパトカーで送ってくれるなど、他の国では見ることができない風景を毎年韓国では行われています。私もこのような国はないとっていて、私がここ大阪府立大学に入学する当時は、韓国人よりすごい負担感で高校生活を過ごしている人はいないと思っていました。

しかし、そのような考え方は、日本生活が長くなって、また日本人の友達とこの受験について話をする間に、日本人も韓国人とは違う方法の受験生活で苦勞しているのではないかと思うことになりました。それは、日本人の高校生の方がたくさん国家試験を受けることになっていることや高校生活の間に授業や塾だけでなく、部活などしていることがたくさんあることを聞いたからです。しなければならぬことがたくさんあった時からでてくる負担感というのは、今大きくなって見ると、「それは簡単だったよ」といってくれますが、実際はすごい負担感を持ったのではないかと思いました。

私がこのように感じるようになった最も大きいきっかけは、家の周辺に建てられていた塾の広告でした。その広告の中で特に、「中学受験対策」や「高校受験対策」という内容でした。韓国では、そのような単語を見かけるのはできなくて、特別な目的で建てられたごく一部の中学校、高校に入学するための受験対策の塾がたくさんあります。そのごく一部の高校を除いては、高校受験が必要とされていないのです。韓国と比べて、日本の中学生は高校に行くためには必ず高校受験をしなければならぬことを日本人の友達から聞きました。また、高校生になってからは、センター、そして大学の二次試験などを準備しなければならぬので、スヌンだけを受ければ、その後が決まる韓国とは違って、日本人はセンターが終わってもそこから、また違う試験に向けて準備をしなければならぬことを知って、大学生になる最後まで、頑張つて勉強しなければならぬと思うことになりました。更に、日本人の高校生は部活もしていることで、私はびっくりしました。自己紹介をする時に、「私は何々部出身です。」とか「私は何々をしました」など、小学校から高校まで、過去にしていた部活のことを話してくれることで、活発に活動していたことがわかりました。そこから私は、部活をしながら、学校の成績、センター、二次試験、塾に通っている学生たちはその塾からの宿題や復習などの管理、このすべてを自分自身でやっていなければならないことに気づき、勉学だけを集中するような環境を整っている韓国の高校生とは比べられないと思いました。

私は、日本人との交流を通して、韓国人の受験が一発勝負で決まる方法になつていても、日本人の多様な活動を伴う受験という方法は、韓国以上に大変であることがわかり、更に違う方法で、みんな同じ大学で同じく新たな一歩、新たな生活を過ごしていることがわかりました。このことをきっかけに、人それぞれに様々な方法で生きていることを改めて知ることができ、また相手を理解することができたのではないかと思いました。

ご清聴ありがとうございました。

## <銅賞> 現実となった日本人

人間社会学研究科 交換留学生  
エリザベート リシャル  
Elisabeth Richard (フランス)



皆さん、こんにちは。簡単な自己紹介から始めさせていただきたいと思います。リシャル・エリザベートと申します。22歳のフランス人です。9月にここに来ました。日本は3回目ですが初めての留学です。

数年前の話なのですが、まだ日本語と日本の文化を習っていなかった時はこの国を想像していたイメージがちょっと不思議でした。ドラマから見ていた日本ではみんながかっこよくて、どこでもいつでもドラマチックな音楽が流れそうという国を夢見ました。パリで売っているまずいお寿司ぐらいは日本料理だと思っていました。高等学校の私の日本はまだ実現していなかった夢の国でした。

そのあと、大学に入ったら日本学部で日本語と日本の文化と歴史を習い始めました。二年後に3週間で日本に一人旅をして、素敵な人と会うチャンスもありました。去年はまた日本で2ヶ月半の旅行ができて、また違う優れた人と出会って、すごい思い出になりました。今後は一年間いる予定で、今まであった人はすごい仲よくて素敵な日本の家族となっています。次は一生の滞在になるかも知れませんね。

ときどき「なんで日本に来ました？」か「なんで日本が好きですか？」という質問を聞かれて、答えるのが本当に苦手です。みなさん、普通は「なんでチョコレートが好き？」や「何でサッカーが好き？」という質問は聞きませんか？「今から日本が好き」という転機がなかったのです。7歳の私がトトロの映画でもう日本の不思議な魅力に憧れたわけかも知りません。

この国は完璧ではありません。フランスと同じく、優しくない人もいますし、フランス人と同じくケンカも起こるし、フランスと同じく寂しい時もあります。ここはフランスにはない地震や台風などという危険もあります。しかしながら、フランスは経済状況などで憎しみな雰囲気があって、フランスでの生活は最近あまり幸せではなかった。

ここは集団意識ということがあります。フランス人には他人の吸い殻を捨てることがありえないです。今朝、東京・渋谷で行われていたハロウィーン後の掃除についての記事を読みました。ボランティアさんたちがみんなゴミを拾ったりしました。パリジャンとして素晴らしい日本人の特別な性格だと思います。

今、日本は自分で決めた現実となりました。特別になった理由は自由で選択できただけかも知りません。やはり間違いなくここは自由で幸せな生活です。

またいろんなことが言えますが、時間も言葉も足りないのでここでやめさせていただきたいと思います。ご静聴ありがとうございます。

## <奨励賞> 私から見た日本人との交流経験



工学研究科博士前期課程1年  
オウ ギグン  
Yiqun Wang (中国)

初めまして。王誼群と申します。

今日はまず、この弁論大会を主催してくださいました大阪府立大学の国際交流推進機構にお礼を申しあげたいと思います。これを機会に、私が日本に留学していた五年間の生活を振り返ることができました。

まずは自己紹介をさせていただきます。私は中国の瀋陽市出身で、地元の東北育材学校で日本語を勉強していました。大学へ進学する際に、そのまま中国の大学に入るのと日本へ留学する二つの選択肢が目の前にありました。自分は子供の時から「ドラえもん」の漫画を読んでいて、日本の文化にとっても興味があり、また、日本語能力をもっと高めたいという思いで、日本へ留学することを決意しました。そして、半年間日本語学校に通った後、大阪府立大学へ入学しました。

中国で日本語を勉強した時も、学校に何人かの日本人の先生がいらっしゃって、日本人と交流する機会は多かったのですが、実際日本で生活してみると、やはり日本語を話すたびに緊張していました。今回は学校の先生だけではなく、お店の店員さんから近所の方々まで、年齢や職業関係なく、幅広くみんなと交流することができました。その中で一番楽しかったのは同年代の人達と話せたことです。もっと交流したい、そして日本の社会をもっと理解したいという思いで、私は飲食店とコンビニのバイトを始めました。外国人の私を採用した店長さんにもこの場を借りて感謝を申しあげたいと思います。こうやって学校やバイト先でいろんな人と会話することができ、話の内容も豊富でした。私の知らない神社の正しい参拝のやり方から、大晦日のおせち料理の作り方まで、いろいろ教えてもらいました。それと同時に、外国人に中国の文化を伝えることもでき、楽しい交流がたくさんありました。その中に、「culture shock」を受けたことももちろんありました。一つの例として、同級生に「貯金はどれくらいあるの？」と聞いて、引かれたことはあります(笑)。また、自分は異性に下の名前を中国語で呼ばれ、恥ずかしかったこともありました。こういうときに大切なのは、負けない心と相手を理解する気持ちですが、ありがたいことに、自分は出会いに恵まれて、周りの人たちに暖かく受け入れてもらいました。

日本語を何年間も勉強していたと言っても、日常生活で間違っって笑いを招くことも多々ありました。以前は「なし」を「なす」と間違っして、友達が「なす」のジャムを勧めてくることにびっくりしました。また、「こける」と「焦げる」の意味を間違えて、友達のうっ血したところを指して、「焦げたの？」と真顔で聞いたこともあります。自分はその時すごく恥ずかしくて、「日本語をちゃんと勉強しなきゃ！」と思いましたが、結局みんなにすごく受けて、良かったかもしれません(笑)。

また、学校では先生から標準語を教わったため、大阪に来た最初の段階では関西弁をまったく理解できませんでした。テレビで番組を見るうちに関西弁も理解できるようになりましたが、せっかくですので、「関西弁もしゃべれるようになりたい！」という気持ちもありました。その願いが今年の夏についに叶いました。今年の研究室旅行で、同期との出し物で、吉本新喜劇中の役をやることになり、それを機会として関西弁を細かく教えて頂きました。結果としてはみんながすごく笑ってくれて、演出は大成功でした。「にせ関西弁だ」とつっこまれるかもしれないですが、「郷に入れば郷に従え」の諺のように、日常でもたまに関西弁もしゃべりたいと思います。

振りかえってみると、日本に来てもう五年間が立ちました。最初の一步を踏み出したおかげで、たくさんの方と出会い、友達を作り、もっと広い世界を見ることができました。もし新しく入ってきた後輩の留学生に、日本人と交流するコツを聞かれたら、私はこう答えるでしょう。照れて話しかけることができないことも、緊張して会話中何回も囁んだりすることも、それはみんなが経験することです。自分から一步さえ踏み出せば、その努力を見てくれ、理解してくれる人が必ずいます。だから怖がらずに、勇気を出して周りの人と話をしましょう。これが私から見た日本人との交流経験です。

以上で発表終わります。ご清聴どうもありがとうございました！

## <奨励賞> 日本人との交流を通して気づいた事

工学研究科博士前期課程 2年  
グエン レ アン  
Nguyen Le An (ベトナム)



私の留学期間は今年で7年目となりますが、実は、日本に来た際、日本語が全く分からなかったもので、周り  
とできるだけ早くコミュニケーションを取れるようになりたいという気持ちで、日本語の学習に励む毎日でした。  
しかし、文法や単語をたくさん覚えても、日本文化を知ったり、接することが殆ど皆無だった私は、日本人  
との会話はなかなか心が通じ合いませんでした。やはりお互いの文化や背景や考え方など知らないままで、  
言語数をたくさん重ねるだけではコミュニケーションというものが成り立たないと私は思いました。このまま  
ではいけないと、自分から日本人との交流イベントを探していました。日本文化との交流などそういうイベン  
トや地域の方々と交流できるカラオケ会や着物試着会やそれぞれの国の料理会などに積極的に参加して来ま  
した。また、高校生たちに他国の文化に興味を持ってもらうというボランティア活動にも参加しています。以  
前、堺市の高等学校において国際交流の授業で私がスライドで母国の事を紹介したとき、興味深く聞いてくれ  
て、質問応答の時に盛んに質問してくれたり、面白いツッコミをしてくれたりしたので、クラス全体が盛り上  
がりました。

このようなことをやっていく中で、お互いに理解しながら、気さくに話し合える仲間を作ることができまし  
た。皆さんがとてもユニークなキャラクターを持った人たちばかりなので、このような個性が集まるところにい  
られて、多くの刺激をうけています。

このようなときに、知人の言葉を思い出します。「留学したらできればその国の人たちと直接話したり、交  
流することが、その国の文化や考え方が早く理解できる」というアドバイスです。私は色々な体験を通して、  
この言葉の意味を実感することになりました。

日本人との交流を通して、私は次のことに気づきました。

1つは、留学することは学業だけでなく、国と国の間の理解を深めることも大事だと思います。多少言語の  
壁があっても、自分から積極的に異文化と交流し、そうすると凝り固まった考え方から脱却し、視野を広げる  
ことになるのだらうと思いました。

2つ目は、交流を通して、一番得られたことは他の人と話したときにコミュニケーションをとることが大事  
だと気づいたことです。自分の思っていることを相手に分かりやすく伝えられるかが重要です。いかに知識  
やスキルを持っていてもそれを伝えることができなければ、周りとの仕事や信頼関係が成り立ちません。例  
えば、どんなに素晴らしい商品であっても、その魅力を伝えることができなければ、ユーザに買っていただく  
ことはできません。また、コミュニケーションは伝えることだけではなく、相手の言っていることをきちんと  
聞くことも大事だと思います。相手がどういう考え方・見方をしているか、その背景や願いや思いをどうすれ  
ば理解できるかなどを知るためにこそ聞きます。

さらに、大学ではコミュニケーションを通して、同じ分野だけではなく様々な分野の人たちの意見や考え方  
も聞く事が出来ます。同じ分野の人たちからは出てこないような思いもかけない意見が出てきて、斬新な発  
想を生み出すことができるかもしれません。そして、他分野の人たちに直面している問題を説明できるよう  
なることで、コミュニケーション力や要点を把握できる能力ができるとともに、コネクションが増えることで  
チャンスを掴む機会を増やすことができると思います。

## <奨励賞> 日本で道を迷ったこと



工学研究科博士後期課程 2年  
マイ フォン トゥ  
Mai Phuong Tu (ベトナム)

皆さん、おはようございます。

本日日本の道を迷った経験について発表します。私はいて座なので、旅行が大好きです。今、日本語はちょっとよくなりました、でも、3年前に日本に来た時全然知りませんでした。他は、その時スマホもなし、旅行は本当に大変だし、迷った経験にいっぱい遭いました。


最初の迷った時は白鷺団地の自分の部屋から府大に行った時です。前に、友達が道を説明してくれたけど、一緒に行かなかったら、やっぱり道を忘れちゃった。それから、途中で知らないおばあさんに英語で道をききました。おばあさんは英語があまり分からなかったが、日本語で熱心に答えました。おばあさんのおかげで、結局到着しました。本当に感謝です。

他の経験、2年前に別府から河内北九州まで一人でふじ庭を見に行きました。出発の前に電車とバスはチェックしたけど、博多駅に電車をおりた時バスを見つけることができませんでした。もう一回、突然に会った日本人に頼まなければなりません。男の人は優しく、親切でした。けど、その人もバスの場所が分からなかった。最後に、私を連れて交番に行きました。その時、私はびっくりだし、ちょっと困りました。ベトナムは犯罪者だけが警察にいかなければならないので「私は犯罪者じゃないよ」と思った。でも、よかった。その警官は優しく、英語がとても上手でした。警官は「バスの場所は変わったよ」と言って、行き方をちゃんと教えてくれました。

けど、まだ終わりませんよ。バス停を見つけるのは少し難しかったので、もう1回、若い男性にききました。彼は私を連れてバス停に行きました。それから、さよならと言って、10秒後に、戻ってきました。「今、9時ですが、バスは11時に出発します。この場所は暗くて、危険だから、あなた一人では絶対ダメだ!!!」と言った。それで、彼は私がバスに乗った時まで待った。とても感謝しましたね。

親切な日本人ばかりに会った、私は本当にラッキーですね。

私のスピーチはここまで、皆さんお聞きいただきありがとうございます。

 当日の様子は YouTube にて「大阪府立大学 フォーラム」で検索

大阪府立大学  
国際交流会館 I-wing なかもず  
オープンニング記念フォーラム報告書  
(第 22 回留学生日本語弁論大会)

大阪府立大学留学生後援会  
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号  
大阪府立大学 国際交流課  
電話 072-254-9962 FAX 072-254-8145